

丸勘山形青果市場が 災害時に物資を供給

県と協定締結

県と青果物卸売業の「丸勘山形青果市場」(山形市)は14日、災害発生時に県内の避難所へ青果物などの供給、運搬を迅速に行う協定を結んだ。同社の物流網を生かした輸送に加え、市場の広大なスペースを活用し支援物資の集積などを担う。

協定は大規模地震を想定



(右から) 協定書を取り交わした吉村美栄子知事、井上周士社長、佐藤明彦会長。県庁

しており、内容は①応急生活物資(青果物など)の供給②支援物資の輸送上の2点。①は同社が県の要請に基づき、青果物などを避難所に供給、運搬する。②は広域物資輸送拠点として市場施設を無償提供し、県内外からの支援物資の集積や保管、緊急輸送などを行う。配送費用などは県が負担する。

この日、県庁で協定締結式を行った。吉村美栄子知事は「これまでの災害では、応急生活物資として野菜など生鮮食品が少ない状況にあった。栄養バランスが崩れる恐れがあり、避難生活の支えになると思う」と意義を強調。井上周士社長は「東日本大震災の際、自分たちの仕事は人の命をつなぐ仕事だと再認識した。市場をフル活用して役立ちたい」と話した。

(佐藤裕樹)